



## 「全体協議会」を受けて

事実上の「中間発表会」を終えて、ほっとしているところですね。

今回の協議会で、私たちが進んできた方向性に大きな問題点はなかったと思います。これからは、協議会の参加者や押谷先生からの意見や助言をもとに、今後の方向性を探していきたいと思います。

さて、今号では「指導案」に沿って、ボクの授業や本校の研究の成果や問題点として明らかになったことを超私的にまとめてみました。職員一人一人が、私的中间総括を試みることを提案します。



### 1. 主題名 ふるさとを思う（ビデオ「七夕祭り」自作）

○ビデオのみで良かったのか

- ・これについては、何ともいえない。ビデオそのものには力があつたと思う。しかし、「本時のねらい」に迫るためには、他の文章資料も用意した方が良かったという意見が有力であったようだ。
- ・自作教材（文章化したもの）を用意して、展開前段で利用し、ビデオとゲストティーチャーを合わせて展開の後段に設定するという方法が、一般的なようだ。ただ、この方法も最初から考えに入れていたのだが、あえてビデオのみでやってみたのだ。このビデオのみということについては、結論が出ていない。もっといいビデオなら、ビデオのみでもいけるのではないかという気もする。
- ・ビデオの編集については、「もう少し、いろいろな人のインタビューを載せればよかった」という意見があつた。これについては、その授業の組み方で変わってくるものと思われる。

### 2. 主題設定の理由

○Mちゃんとの授業について

- ・とくに問題点は指摘されなかった。ただMちゃんとの授業（あるいはH先生とのTT授業）については、以下の指摘があり、わたしたちの方向性に自信を持った。

※ Mちゃんが一緒にいるだけでいい。友達が「Mちゃんの見聞もちょうんと聞いてあげよう」という態度こそ、道徳的な風土である。

※ M ちゃん自身も道徳の授業を楽しみにしており、それもまた、学級のなかでの位置があることの証明であろう。

※自分らの授業のために、先生たちが、仲良く力を合わせてやってくれていることが大切。それは必ず子どもに伝わっているはずだ。TTの指導上の技術論も大切かも知れないが、そういう教師の姿勢こそが子どもたちにいい影響を与えるはずだ。でも、指導技術も研究していきたい。

### 3. 他教科との関連

#### ○総合単元的な考え方

- ・道徳教育を総合単元的に関連づけるという方向は、「道徳教育が学校教育活動全体で行われること」と「道徳の時間は、それを補充・深化・統合することである」ことをとってみても、今後の研究の要となるであろう。「生活と切り離された道徳の授業」とならないためにも、総合単元的な発想を大切にしていきたい。
- ・また、「心のノート」の位置づけについては、今までの全教育活動を通して使えるときに使う—ということから、一歩進んで、「何気なく使う」という方法も教えられたように思う。「心のノート」を使うというよりも、「心のノート」に示されている道徳的な価値観・感性を、学校全体・地域全体が持つように、いろいろな手だてをしていけばよいということだろう。
- ・というわけで、授業の位置づけは、一応、関連構想表に盛るけれども、あまり気にせずやっていった方がいいと思う。教師の個性をどんどん生かしていけばいいのではないか。今回の掲示などは、促成麴的なところが多かったが、それでもとても学校が明るくやさしくなった気がするのはボクだけだろうか…。

### 4. 本時のねらい

○これについては、事前研究会からいろいろと議論があった部分である。それは次の3点だ。

- ・本時のねらいには「本時が目指すもの」を書くべきで、後のことは書かなくて良いのではないか。
- ・本時のねらいは、「気づく」だけで良いのではないか。あまり欲張らないでおこう。
- ・本時のねらいは「気づく」だけでは弱い。やはり、自分も主体的に関わっていかうとする態度まで目指して欲しい。

#### ○整合性のない指導案

- ・こういった中で、結果的には「授業の内容は<気づく>だけ」なのに「本時のねらい」が指導要領準拠のようになってしまい、誠に整合性のない「指導案」となってしまった。
- ・整合性を持たせるためには「気づく」だけにすれば良かったのだろうが、それ

では弱すぎたのではないか。だとすれば、展開部分で早めに祭りからはなれてふるさとへ一般化し、児童の実践に結びつけていくような広がりのある終末が必要だったのだろう。

- ・「本時のねらい」の表現をもう少し別の角度から組み直すこともできた。

## 5. 展開

### ○みつける

- ・帯グラフの〈何〉を聞いているのかがわかりにくかったという意見があった。なるほど、指摘されたとおりでである。指導案を何度も作り直している間に、自分の中で当たり前となることが多いので注意すべきだなあ。
- ・みつける段階で、何を子どもたちは見付けたのだろう。ボクは「こんなにも地元から離れた人がいるのだよ」という事で充分なのだが、それでは、道德の授業としては 10 分も使うのはもったいないのかも知れない。でも、この部分は正直言って、未だによく分からない。何でもありでも良いような気もするのだ。
- ・子どもたちは言いにくそうにしながらも、グラフを見て改めて地元に残っている人の少なさに注目できたと思う。また、展開部分でも「みんなのお父さんたちはこっちの方だね」と常に確認できたのはよかった。

### ○ひろげる

- ・ビデオを視聴する①②

ビデオだけの授業についての是非は、さきにも書いたので省略。子どもたちの写真を見る限りでは、すごくビデオに集中していたようだ。まずは、成功だろう。

- ・子どもたちの意見を予想して写真等を用意しておくことの是非について  
ボクが今回考えもしなかったことがこれである。「写真を用意していないような意見が出たら板書すればいいわ」というくらいにしか考えていなかった。これは、自分でも反省すべき点だ。参観者から指摘されたように、せっかく発言してくれた子どもたちも「ああ、写真が無かったのか。先生の期待する答えじゃなかったのだな」と思ってしまう可能性がずいぶん高い。これでは、「教師の顔色を見て話す子」を作ることになる。これはボクの 4 月から言ってきたことに反する。自由に思ったことをいえる雰囲気こそ追求してきたんだから。

さらに情けないことには、「写真を用意した方がよい」と思いこんでいたことである。なんでもかんでも時間に余裕があれば準備すると言う感覚が、子ども中心のように見えて実は、教師主導の考えしか持っていなかったことの証拠であった。

このことは、実は、Mo 君が「町はかわつとるかなあ」と言ったときに、少し頭をかすめたのである。そこで、すぐに H 先生に「見附島貼って」と小さな声で頼んだのだが、聞こえなかったのだった。

- ・ゲストティーチャーとの授業

ゲストティーチャーに石井さんを迎えたことは授業を成功に導いた。これほど有意義に GT の効果があるのもめずらしい。石井さんの人柄とふるさとへの思い、それに度胸がもたらしたものだだろう。GT は子どもたちに本物と出合わせる絶好の機会である。真面目に生きている人に多くふれることが、現代の子どもたちにとって一番大切なのではないかという押谷先生の意見に、大きくうなづいたのであった。家庭環境を嘆いていても始まらないのだ。

- ・展開後段は子どもたちも思っていた以上にさまざまな考えを出してくれ、〈気づく〉という面ではよかったと思う。GT で「〈祭り〉から〈ふるさと〉へ」と一般化するつもりだったが、不十分だったようだ。子どもたちの感想を読んでも、祭りのことがたくさん出ていたから…。この部分は、さらに考慮する必要有り。現時点では頭の整理がついていない（祭りを後々まで引きずり過ぎた授業だった）。

- ・GT の話から「地元の人々の温かさ（迎え入れてくれる姿勢）」を感じている子がたくさんいた。

- たかめる

- ・ビデオの効果はあったようだ。「H 先生が読んだ詩にはとても感動した」と書いていた子もいた。
- ・終わり方が、ややカッコつけすぎたことはないか…。

## 6. その他

- 板書について

- ・まあ、これだけ考えれば、一応、それなりの板書が出来ることが分かった。みんなの協力があったことだ。何でもお互い得意技を出し合おう。一人で悩んじゃダメですよ。

- TT と M ちゃんについて

- ・M ちゃんについているときはボクが板書して…とか、この質問なら M ちゃんがついてきそう…とか事前に H 先生といろいろと相談していたが、予想以上に M ちゃんが積極的だった。とっても良い傾向。下手な TT も数打ちやあたる。

- プロジェクター

- ・迫力があつた。ありやすごい。しかも OHP より、ある意味手軽にできる。どんどん借りよう。買えればもっと良い。何処かにお古はないか。

- 押谷先生のお話

- ・後ほどテープおこしをして、講演記録を作る予定。「理想の具現化」を示してくれた気がして、楽になったのはボクだけか？



というわけで尾形の私的総括を終わります。皆様の感想もお待ちしております。